



リゼンドル氏建言書

是ハ初度ニ於テ
之分



444
A 4434
6

第七節



日本國ノ形勢ヲ察スルニ其危難將シ英國ヨ
リ起ラントスルノ兆アリ而シテ又日本國ハ魯
國ト其得失ヲ同フスルノ便利アルカ如ク見ユ
ルト雖モ日本ハ英國ニ對シ堅然抵抗シ而シテ
魯國ヲ自然信スルハ其政^法ヲ做スベシト予ハ云ハ
サルナリ予ノ意見、之レト大ヒニ異レリ今若
シ日本國右ノ如キ状態ヲ做ストキハ必然自ラ
困難ヲ招キ来スベキハ他人ノ知ル如ク予モ亦

大正十一年四月
隈侯爵邸寄贈



之レヲ覺レリ蓋シ日本ノ國力ハ猶未タ微弱ナ
リト云ハサルヲ得ス而シテ既ニ今ニ日本ノ當
サニ負担スベキ難事ナカラスアルニ又之レニ
加フル 右ノ如キニ難事ヲ以テスルトキハ尚
ホ一層國力ノ微弱ヲ増スニ至ルベク而シテ日
本ノ為メニ甚タ緊要トセル開化ノ進歩ヲシテ
遲延セシムベシ譬ハ今マ日本ノ到着セント
スル港ハ前頭ニアリ故ニ只ニ能ク國ノ舵ヲ把
リ西方面ニ並立シタル暗礁ヲ經過シ能フ時ハ亦
全英港ニ達スベキナリ今ヨリ日本國ノ施スベ

キ政ニ於テ予ノ希望スル所ハ則チ他ナシ唯
思慮アリ且ツ獨立自主ノ政法ヲ以テ各國ヲ待
セシコト是レナリ故英國ニ對シテ日本ノ施ス
ベキ政法ハ甚タ明瞭ナルモノナリ則チ日本ハ
英國ニ對シ敵對ノ形狀ヲ做スベカラス去レト
モ是レ迄英國ヨリ日本へ施シタル壓逼ノ勢ニ
太々容易ニ屈セサラン爲メニ意ヲ用ヒサルベ
カラス蓋シ其壓逼ノ勢ニ屈スル時ハ内ハ自主
ノ權ヲ以テ國事ヲ執ル能ハス外ハ全ク同等ノ
地位ヲ以テ外國ニ交ル能ハサルニ而シテ自

主ノ權ヲ以テ國事ヲ執リ同等ニ居テ外國
ト交ルコトヲ得スンバ焉リ其國力ヲ強クシ或
ハ日本國ノ應^ルニヒムベキ各國ト是肩ノ地位
ヲ占メ^ルコトヲ期^スベケンヤ

日本ハ英國ニ須^ルヲク左ノ如ク陳述スベシ
我々ハ今ヨリ支那ト同一ノ待視ヲ你ヨリ
受クルコトヲ容サ^ルルヘシ你ハ你ノ國ノ
資本ヲ使用シ產業ヲ興サン爲メニ我内地
ヲ開カン^トラ欲スル旨ヲ唱フ我々ハ你
ニ^テ所ヲ許シ能フベシ但^シ我々ノ取設ケ

ント欲スル條款或ハ其他你ノ方ヨリ陳出
スヘク而シテ我々ノ意ニ適スベキ如キ條
款ヲ你ノ承諾セン^トラ欲ス你若シ是レヲ
承諾セシ上ハ我々ハ你ノ欲スル所ヲ許シ
能フベシ此一事ニ付我々ノ理解スル所ニ
依レハ則チ其事情左ノ如シ
我々ノ意見ニ於テハ我々ハ支那ト全ク異
ナリタル有様ニ於テ你ニ待視サレスニハ
アルハカラサルコトハ前既ニ述ヘシ所ナ
リ夫レ支那政府及ニ英國ノ政國黨ハ臣

ニ 泰西風ノ意思行ハル、ヤ、自個ノ威權
内ステルニアルヲ
忽チ衰微シ終ヒニ全ク亡滅スルニ至ルベ
キコトヲ悟覺スルニ依リ何等ノ事ヲ問ハ
ス改新ノ事ヲ柱メテ嫌惡スルカ故泰西風
ノ意思ヲ其國ニ開カシコトヲ拒抗セリ而
シテ你ハ支那ニホテハ斯クノ如キ政府及
ヒ鎮國黨ヲ待遇スルナリ然ルニ日本、於
テハ其景況全ク之レト相及セリ日本政府
ハ外人ノ技藝協力及資本ノ助ケヲ得以テ
日本人民ノ情狀ヲ進歩セシメ且國富又ノ

源ヲ發開セン爲メ其人民ヲシテ泰西人民
ト親睦ノ交ヲ結ハシメシコトヲ切ニ志願
セリ然リト雖トモ今若シ一時ニ國ヲ開キ
且ツ最初ノ制限ヲ加ヘサルトキハ日
本人民ハ外國様ノ方法、技藝及資本ノ用法
ヲ解セサルニ依リ日本人民ト外人ト合力
シテ生シタル利潤ノ過半ハ必然外人ノ手
ニ落チシコトヲ日本政府ハ深ク患フルナ
リ故ニ日本政府ハ日本人刊行ノ新聞紙及
ヒ全國ノ諸地ニ建立セル學校トヲ以テ

一ノ
一ノ

要ナル智識ヲ民間ニ市場セシメ爲メニ今ハ
専ラ其力ヲ尽セリ此新聞紙ニ於テハ其地
方ノ論説者ハ今日政事ニ関與セル産大事
ヲ自由ニ論辨スルガ故ヘカ、ル論説者ハ
自身公ケノ勸言者及ヒ一黙ノ唱首ニ適当
スヘキ人物ニ至ルベク而シテ又後世ノ人
ラシテ最モ開化セル國人ノ日本へ來訪ス
ル者ト同等ノ交ヲ做シ得ヘカラシムル如
キ政事上ノ形状ニ漸々日本ヲ進歩セシム
ルナリ

右ノ諸學校ニ於テハ外國ノ語學ヲ教授シ
又日本語ヲ以テ刊刷シ且ツ圖画ヲ加ヘタ
ル書冊ヲ以テ泰西諸術ノ初歩ヲ教授セリ
加之日本ニ於テハ婦人女子ニ至ル迄人々
文字ヲ讀ミ且ツ之レヲ書スルノ術ヲ知レ
ル故ニ人々文字ヲ讀ミ且ツ之レヲ書スル
コトハ獨リ支那ニ於テ見サル如キナリ
泰西ノ或ル國ニ於テハ紙ヘテ在ラザル所
ナリ左ノ如ク布揚セル智識ハ一層速カニ
民間ニ廣布スベシ

政体上ニ此一大変革ヲ成リシニ爲メ我國ノ
大ヒトル君長ハ豪氣ヲ奮ヒテ全ク自身
ノ心意ニリ殆ント上ニ權ニ近キ程ノ權
カラ一朝ニシテ國民ノ爲メニ辞退セリ
シテ又諸大臣ハ其世襲ノ特權ヲ辞シタリ
而シテ夫レガ爲メニ殆ント饑寒ニ迫
至リタル者唯一人而已ナラズトス然レ
テ是レ何ノ爲メゾ唯一其以前ノ家臣及ヒ
本土ニ對シ其本分ヲ尽サントノ心意ニ出
テシナリ

世上及政事上ノ大變革ノ全ク成就スル
時ハ泰西諸國ニテ其國ヲ日本人ノ爲メニ
開キタルト同一ノ有様ニ亦々泰西諸
國ノ人民ノ爲メ安全ニ日本ヲ開キ能フベ
シ然レトモ此ニ種屬ノ人民ヲシテ自由ノ
交リヲ做サシム^ハ適当ノ時節未タ到着セサ
ル以前今自由ノ交通ヲ限制セル法ヲ直テ
ニ禁止セル時ハ多分ト日本ノ間
ニ争論ヲ生スルニ至ルヘク而シテ其争
論ノ長ク引續ク間々ニ或ハ改革ノ全業ヲ

年途ニシテ廢スルニ至ル一ツ位ツ筆論ニ
關涉セル外人ノ本國政府ト日本政府トノ
間ノニ葛藤ヲ生シ夫一ガ爲メニ當今日本
政府ト外國政府トノ間タニ存セル懇親睦
ノ交際ヲ破レニ至ルモ計ル可カラサルナ
リ
日本政府ハ其関手ノ業ヲ成遂クル迄ニ若
干ノ時間ヲ要スベシ而シテ斯ク遲延セル
ノ時間若シ餘リ長シトナスニ於テハ不完全
一ツ方策ヲ差向キ採用セザルヲ得ナリナ
リ

リ
現今ノ條約面ニハ下位ノ稅則ヲ掲ケ且ツ
外人ハ日本ノ法律外タルベシノノ章程ヲ
掲ケタルニ依リ此條約ニ依リテハ内地ヲ
関キ能ハサルコト第一明瞭ナリ又第一ニ
ハ縱令日本ハ寛大ノ法律ヲ設立スルモ外
國政府ハ一時ニ其國民ノ生命自由及ヒ貨
財ノ日本國法院ノ裁許ニ委子サルハ不明
カナルナリ其故如何トナレハ適宜ノ律法
ヲ設立センコトハ容易ナルベキモ之レヲ

實際ニ施行シ能フベキ人物ヲ一朝ニシテ
教育シ能ハサルベケレバナリ茲ニ又一難
事アリ則チ日本政府ハ其國人民ニ對シ其
威風ヲ失フベカラサルナリ然ルニ若シ外
人ハ日本ノ法律外タルベシトノ章程ニ依
リ外人ノ内地ニ居住セル時ニ至リ外人ハ
其本國ノ法院或ハ土耳其又ハ埃及土ニ於
ケル如キ參雜法院本國ノ裁判官ト出席セル外國ノ
裁判官ト出席セル法院
ヲカズノ外決シテ其他ノ法院ノ裁判ヲ受ケ
サルトキハ日本人民ハ新外人ノ爲メニ做シ

タル此區別ヲ看誤リ外人ノ方ヨリ負ス擅
マニ日本人ノ上ニ出ツルコト最モ不道
理ナリト做シ而シテ日本人民ハ必ラス云
ハシ外人若シ左迄日本國ノ風習及ヒ法律
ヲ嫌ハバ何故ニ日本國ニ來レルヤ何故ニ
レノ本國ニ出リ居ラサルヤト而シテ外人
ハ元ト政府ノ趣意ヲ反シ其詭論スル所ヲ
聽カスニテ内國ニ來レシモノニテ畢
竟政府ノ微弱ナルヨリ斯ク外人ヲシテ其
指令ヲ奉ヒシメ能ハズト日本人民ノ考フ

ルトキハ人民ハ縦令政府ヲ侮慢セサルモ
必然恭敬ノ心ヲ失フベキナリ
今マ斯クノ^①茲ニ又一事難事アリ是レ則チ
如キ形勢ナク外人ハ日本ノ法律外タルガ故
ルカ故ニ我々外人ヲ裁判スル者ハ其國々
々ハ裁判局ノ領事官ナリ然ルニ領事官ナ
ヨリ進言セルモノハ妻クハ商人輸入者及
ル法律ニ付ヒ製造會社或ハ建築會社等ノ
キテノ方策ヲ代タルガ故ニ日本ノ産業ノ
ヲ檢査改正途ニ関カシ爲メニ此國ニ送ラ

大藏省

シ汝ノ欲スレタル如キ外國人トハ妻ク結
ル如キ日本合スルハ必然ナリ去レハ日本
ノ更改ニ相人ト爭論ノ起リタル場合ニ於
当スベキ新テ如何ナル裁判アルベキヤ豫
律ヲ作ルベシ知ルベキナリ
シ而シテ此新律我國ノ何レノ部分ヲ問ハ
ズ你ノ國人ノ来リ住スル者ハ常ニ必ラス
此新律ニ服センコトニ欲スラ實際ニ施行
スベキ任ヲハ日本人ト外國人官吏トニ
成リタル裁判所ノ成ル可ク大ケ其任ニ堪

大藏省

タル裁判所ニ委スベシ是レ等ノ改革ヲ
 成シタル後ニ至リ全ク一變セル情景ハ
 令你ノ本國ニ在ル時、情景ニ全ク約シカ
 ラサルトモ你ノ時々肯ニシテ住居シ且ツ
 歳ニ其法律ヲ守ラシメラル、所ノ西采利
 加及ヒ歐羅巴ノ諸國或ハ波斯ニ住スルノ
 情景ヨリ^①合衆國ト波斯國トノ條約(千八
 ク端思スベ而五十二年十二月三日ニ結
 キモノニ非ヒタル條約ナリ)ニ於テ裁判ノ
 ラサルハ固々^②英國トノ條約ニ全ク同

ヨリ必セリシ其章程則チ左ノ如シ
 此策ヲ施行
 第五章
 セン爲ノ我波斯國ニ於テ其國ノ臣民ト合
 ヲハ日本語衆國ノ國人トノ間々ニ起リク
 ラ話説シ能ル訴訟及ヒ爭論ハ總ヘテ合衆
 ノ外國人ノ國領事官ノ在番スヘキ地方ニ
 内ヨリ我々於テ平生右ノ如キ事件ヲ裁判
 ノ意ニ適シセル波斯ノ裁判所ニ於テ所分
 且又外國公サレベク而シテ合衆國領事官
 使ノ意ニ適ニ屬セル一名ノ役負ノ前ニ於

シタル小數
テ訟事ヲ議シ且ツ之レヲ公正
ノ人負ヲ撰
ニ判決スベシ

奉シ譬へハ
第三

十年間日本
西國何レニ於テモ其内地貿易
ノ裁判官トニ從事スル者ハ西國ノ内何レ
共ニ職ヲ奉
ノ國ノ商人タリトモ其高事上
セシメ而シ
ニ於テハ諫商事ヲ行フ所ノ國
テ其間ハ退
ノ法律ヲ遵奉スベシ
職セシムルコトナカラシメ以テ奉職間全
ク自身是非ノ心ノ外絶へテ他ニ感動セラ

ル、コトナカラシムベシ而シテ又外國人

狀師ヲ命シ右ノ裁判官ニ伴ハシムベシ

但シ此狀師ノ職務トスル所ハ則チ法律ノ

意味ヲ講解スルノ助ケヲ為スコトニシテ

法院ニテ裁判ヲ施ス以前必ラス先ツ此法

師ノ判決ヲ取ラシメントス扱是等ノ人々

ヲ以テ地方法院ヲ紐立ツベシ則チ地方法

院トハ刑律及ヒ民律ヲ論セス総へテ裁判

所ニ訴へ出ツベキ訟事ヲ裁決センガ爲メ

全國ノ諸地方ニ於テ時期ヲ定メテ同ク所

ノ法院ヲ云フナリ

是レ等ノ法院ニテ施シタル裁判ハ東京大
坂及ヒ長崎ノ地ニ於テ前同様ノ振合ヲ以
テ立テタル上控法院或ハ東京ニ在ル最上
法院ニ上控スルコトヲ得ヘシトス而シテ
右地方法院ハ獨リ外人ニ関涉セル訟事ヲ
審判スルノミナラス他ノ諸訟事ヲモ亦審
断スベキナリ斯クノ如キ方法ニ依リテ外
人及ヒ日本人ハ同等ノ地位ニ在ルコトヲ
得ベキナリ斯ク裁判法ニ外國ノ元素ヲ文

ヘ用エルト雖モ日本人ハ外人ノ爲メ改
府ハ偏頗ノ處置ヲ做セリト云フコトアル
ヘカラス却テ人民ハ舊法ヨリ遙々寛大ニ
シテ且ツ日本人モ亦外人ト共ニ裨益ヲ同
シク被ルヘキ法律ヲ施行スベキ手段ナリ
トスベシ而シテ又此法律ノ根元ハ純然日
本ノ法ニ出テシモノニ非ラズ元ト外國ニ
屬セルカ故此法律ヲ日本國ニ施行スルノ
際其助ケヲ爲サシメン爲メ外國人ヲ使用
セシコト素ヨリ當然ナリト思ハルナリ

其実斯ク、如キ法院ニ於テ外國人ノ在職
スルモ今既ニ外人ヲ使用セル諸官省ニ
私立ノ諸高社ニ外國人ノ在ルト全ク同様
ノ理ニシテ聊カ國ノ傲氣ヲ損害スルコト
アル可カラス
扱我全國ヲ你ノ爲メニ関クニヨリ自然你
ノ國人ト我國民トノ間タニ交誼ニ貿易
上ニ於テ親シキ交通ヲ致スベシ尔ル時我
々ハ此交通ニ於テ些モ限制ヲ加ヘサラン
トス但シ掘礦、農業、或ハ製造ヲ論セス何類

ノ事業ニテモ之レヲ與サン爲メ你ノ國人
ト我國民トノ間タニ取結フベキ結社ノ
約定ハ必ラス先ツ其地方ニ在ル法院ノ日
本人及ヒ外國人裁判官ノ許可ヲ得ルニ非
ラサレハ廢弛ニシテ用ヲ做サバルヘキ事
ヲ你承諾シ羌ニ又斯クノ如キ事件ニ於テ
右裁判官ノ施スベキ處置ハ商議部百二十
ニページ及ヒ其先ヲ者ヨリノ勸言及ヒ
規則設立ニ関カルベキ如キ事務ニ熟達ス
ルニ依リ熟考スヘキ諸件オハ一モ遺漏ス

ルコトナキ所ノ日本人及ヒ外国人
立テタル掛リ役負ヨリノ勸言ヲ以テ政府
ヨリ發行セル規則ニテ限制サルベキコト
ヲ你ハ諾承スベシ今ヨリ二三年ノ間ハ諸
関港場ニ於テ施セル現今ノ裁判法ハ之レ
ヲ變革スルコトナキモ可ナルベシ

新條約ニ於テ我々ハ亦我國ノ求ム應スベ
キ如キ改革ヲ加ヘル後午ニ其改正ヲ承
諾セント欲スルナリ今你ノ國人ノ為シ我
カ國ヲ関カントスルニ巨大ノ入費アルベ

シルルニ此費用ニ充ツベキ金ヲ内國ノ租
稅ヨリ收取スベキ源アルヨ見ス加之我
々ハ我海軍及ヒ陸軍ヲ改正シ且ツ盛大ニ
做サハルベカラス沿海防禦ヲ設ケサル可
カラス通商ニ便セン為メ大ヒニ通達ノ道
ヲ設ケサル可カラス而シテ此通達ノ路ヲ
一度ヒ設クルハ我國ヲ一致セシムルコ
トテ且ツ東方諸邦ノ得失ヲ西方諸國ノ得
失ト同シカラシムルニ於テ其効アルコト
此右ニ出ワルモノアルベカラス是等ノハ

事業ヲ奉ケン爲ノ我々ハ今大額ノ金
 スナリ我々ハ廣大ナル荒野ヲ有セリ之
 ラ牧場ニ^ハ変センコトヲ欲ス又我國ニ^ハ在テ
 個ノ大都ア^ハ此一事ノ緊要タルコトヲ記シ
 リ之レヲ進タル予カ記簿ノ十六十九及ヒ
 善センコトニ十一号ヲ着ベシ去レトモ右ノ
 ラ欲ス此外記簿中ニ記載セサリシ一事ア
 我々ハ應サリ則チ此國ニ牛及ヒ山羊ノ牧
 ニ與スヘキ養ヲ閑キ以テ此國ノ人口ヲ増
 無数ノ事業加セシメントノ策是レナリ蓋

アルカ故ニシ此國ノ人口ハ前二百年ノ間
 大額ノ資本ヲ全ク増加セサリキ予ハ今マ
 ラ要セリ而ニ個ノ源因ヲ奉ケ以テ此実事
 シテ我々ハノ由テ来ル所ヲ明カニスベシ
 輸入輸出品則チ第一ノ源因ハ内國人民
 ノ税額ヲ相食物ナリ又第二ノ源因ハ日本
 当ニ増加シニ於テハ非常ニ長キ間タ母ノ
 以テ此資本乳ヲ嬰兒ノ哺エルコトナリ内
 ラ募ラシコ國ニ任スル人民ハ若シクハ牛
 トラ計ルナト塩魚トシテ食シ若シクハ粟

シテ之レヲ	我々自身ヲ	様ノ有様ニ	行ヘルト同	ノ權ヲ施シ	カ獨立自主	ハ他ノ國々	寡ニ至リテ	額増加ノ多	リ而シテ稅
佛堂ニ奉納シタル額ノ画ニテ	婦人が其病中或ハ病後ニボテ	ニ生セサルニトハ乳ヲ患フル	不良ノ乳ト雖トモ之レヲ十分	テ明カニ知ルベシ而シテ斯ク	痲痺及ヒ其軀ニ生スル食物ニ	哺育セル嬰兒ノ頭部ニ生スル	極メテ不良ナルコトハ婦女ノ	キ生活ヲ佐スカ故婦女ノ乳汁	味ヲ以テ食物トセリ斯クハ

フナリ	斯ク我々ハ	我方策ノ概	畧ヲ陳述セ	リ你若シ此	方策ノ大軀	ヲ承諾スハ	此法ヲ條約
乳汁及ヒ獸肉ノ如キ良食ヲ以	テ養育シ且ツ牛乳及ヒ山羊ノ	乳ヲ常ニ与へ能フ國々ノ嬰兒	ニ比スレハ其死亡ノ數更ニ多	シ日本ニ於テハ右ノ如キ見子	ノ方法ヲ用ヒ能ハサルノ	ハミナラス時ニハ一村中ニ乳	給シ能フベキ婦人僅カ三人位
決定セシメ	明カナリ斯クノ如キ不幸ナル	事情ニ於テ日本ノ孩兒ハ薯仔	ニテ				

改正ノ日ヨ	ハ此婦ノハ	施行シ得ル	為ノニ我々	ハ你トカラ	合セ以テ詳	細ノ余款ヲ	速カニ取設	クベシ	若シ英國此約束
ニ過キサル	ハ惟自身ノ	スル而已ナ	及ヒ友人ノ	セサルヲ得	抑塩臭及	腸ノ能ク消	非ラス而シ	ルカ故ハ之	味ノ食物ヲ
所アリ此所	ノ嬰兒ヲ哺	ス其近鄰ノ	嬰兒ヲモ合	サルナリ	本ノ如キハ	化スル所ノ	テ又獸乳ノ	レヲ米ニ調	製シ以テ孩
ナリ此所	ハ	ノ孩兒	セテ哺		ハ嬰兒ノ胃	食物ニ	非ラサ	和シ美	兒ニ与

ラ承諾セズ	他ノ國々	輸出ハ英國	入輸出程ニ	ラサルニ依	入出ノ税額	加スルニ付	程ニ得失ア	ル國々ヲ云	説得シ右ノ
ンバ	其輸入	ノ輸	大ナ	リ輸	ヲ増	キ左	ラサ	フヲ	如キ
フルコトヲ	五歳ニ至	能ハサルナ	ヘリ其人	歳ノ齡ニ	ノ乳ヲ離	ノ一見ヲ	シ能ハサル	國々ニ於	六人若シ
故ニ四歳或	ル迄母ノ	リ予曾テ	予ニ語テ	達シタル	レサリシ	ヲ哺スル	モナリ故	テハ一女	クハ猶ホ
ハ	乳ヲ離ル	一人ニ	曰ク既ニ	トキ猶ホ	ト蓋シ婦	間タハ子	ニ他ノ	シテ五人	ノ嬰兒

方策ニ基キ條約ヲ産出スト雖モ日本ニ於テ
 ノ改正ヲ爲サシハ僅カ三四人ノ見子ヲ有スル
 ヲ承諾セシメシニ過キサルナリ
 為メニカラ尽ス^(ニ)恐ラクハ英國此事ヲ許諾セサ
 ベシ^(十)而シテ或ルルベシ然レトモ今ヨリ兩三年
 國ハ日本ノ内地ノ間稅額ヲ増加セシコトヲ或
 ニ於テ産業ヲ與ヒハ得ベシ而シテ其後ヲ至リ
 スノ特許ヲ得夫日本ハ其意ニ任セ稅則ヲ改定
 レガ為メ今マ英スベキ權理ヲ有セン^(一)ヲ或ハ
 國ノ獨リ專ラニ又得ベキナリ

セン^(一)ヲ欲スル今日本國ハ保護稅ノ法ヲ是非
 所ノ利益ヲ獲收採用セサルヲ得サル道理ヲ明
 スルヲ英國ノ看カニ示サン爲メ予ハ保護稅ノ
 ルニ至ルトキハ法ノ魯國ニ於テ如何ナル効ヲ
 多分英國トノ談顯セシヤラ茲ニ説キ示スベシ
 判ハ大ヒニ容易ゴブ^(一)ト云ヘル人一小冊子ヲ
 ニ爲ルベク而シ著シ其國人ニ告テ曰ク千八百
 十英國ハ終ヒニ十五年ヨリ千八百二十四年ニ
 ハ日本ノ意ニ從至ル迄魯國ニ於テ自由貿易ノ
 フニ至ルヘシ若法行ハレシ間々ハ魯國其國需

大
 鐵
 道

シ又英國ハ日本用品ヲ殆ト全ク外國ニ仰キタ	ノ意ニ從ハサル	トキハ歲ニ依舊絶ツコトアル時ハ魯國人民ノ	ノ法ヲ以テ英國	ヲ待フル方タ上	策アルベシ則チ之レニ及セリ魯國ニ於テ製造	舊條約ニ依リテセル	英國ニ与ヘタル	權利ヲハ悉ク之	レヲ許シ置クベ
一部ハ全ク裸躰ノ姿ニ至ルヘ	シテ依テ一朝若シ外國ト交通ヲ	時ハ魯國人民ノ	一部ハ全ク裸躰ノ姿ニ至ルヘ	カリキ然ルニ今日ニ至リテハ	及セリ魯國ニ於テ製造	印花布ハ其品質甚タ美ニ	シテ其價值モ亦廉ナルガ故ニ	中央亞細亞及ヒ支那ノ市ニ於	テ悉ク英國製造ノ印花布ヲ點

シ去レトモ其餘	ハ毫モ新タニ權	利ヲ許スベカラ	ズ英國ハ決シテ	日本ノ爲メニ欠	クベカラサル國	ト云フニ非ラズ	而シテ又日本國	ハ公道ニ依リ英	英國ヲ待スル間
ケ代リテ其地位ヲ占メタリ又	支那波斯アフガニスタン及	東印度ノ北境ニ於テ賣ラ	ハ毛織物ニ付キテモ右同断ナ	リ魯國産出セル金銀製造品ハ	其模様ノ美麗ナルヲ以テ世界	一般ニ貴重スル所ナリ又魯國	草ニ至テハ他ニ比類アラサ	ルナリ甜菜根ヨリ製出セル砂	糖製造所ハ世界中何レノ國ヨ

大蔵省

タハ英國ハ敢ヘリモ其數最モ多シ而シテ魯國
 テ日本ヲ改鑿スルハ綿絲ノ紡績ニ於テモ亦々大
 ルコトアルヘカヒニ進歩シ而シテ絹製造ニ至
 ラズ抑錢銀鍊熟リテモ莫ス斯科ニ於テ頗ル進
 セル建築師及ヒ英ヲ為セリ斯ク僅カ五十年以
 其他ノ諸品抑テ内ニ於テ總ヘテ此大功ヲ奏シ
 得ベキ國ハ豈獨タルナリ此件ニ付猶ホ詳細ノ
 リ英國而已ナラ記載ラ者ント欲セハ千八百七
 シヤ日本ハ其要十一年倫敦出版ノポルレリ氏
 スベキ借銀ヲ總所著ノ千八百七十年ノ魯國ト

ヘテ荷蘭及獨逸題セル書冊ヲ見ルベシ
 國ニ於テ得能フアリガム氏ハ他ノ諸公使ト合
 ベク又日本ハ其聯セス別個ニ條約改正ノ談判
 要スル羅沙ヲハニ取掛ラシユトヲ欲シ且ツ別
 英國ヨリ得ルト個ニ其談判ヲ做スノカラ有セ
 同様ノ價值ヲ以ル旨ヲ一ヶ年以前ニ發言セリ
 テ且ツ同様ノ品然レトモ同氏ノ陳ベシユトラ
 質ヲ具ヘタルモハ寺島氏之レヲ拒ミシトノリ
 ノヲ佛國獨國ノナリ
 西國ヨリ得能テベシ而シテ又佛國及ヒ合衆國

ハ総ヘテ日本ヲ要スベキ機械ヲ送り来ヌスベ
シ鉄船ノ如キ至リテモ亦之レヲ日本ノ自ラ
建造シ能フ迄問タハ総ヘテ日本ノ需要ニ應
ジ之レヲ合衆國ヨリ送り能フヘキ時節既ニ到
来シタリ而シテ日本國ニ於テ鉄船ヲ自ラ製造
スベキ時期ノ来ルモ亦遠キニ非ラスト予ハ期
スルナリ

日本トノ交際上ノ處置ニ付外國公使ヲシテ英
國公使ト別レシメシメコト甚ク難キニ非ラスト
予ハ思ヘリ是レ迄外國公使ト英國公使ト聯合

スルニ及ヒシハ諸公使ノ過失而已ナラス又日
本國ノ過チナルベシ英國公使ハ獨り交換スル
コト稀レナリト云トモ其他ノ公使ハ此國ニ會
マル者大抵ニケ年ヲ過キハ佛國ハ日本ニ於テ
天主教ヲ播揚セシカ爲ノ往日施シタル不幸ノ
處置ヲ既ニ廢シ而シテ其他ノ國々ハ宗門論ヲ
迫テ主張スルコト非ラザルガ故議論ノ起ルベ
キ機會必シトハ云トモ外國公使ハ時ニ依リ外
務省ニ於テ或ル事件ニ談判スベキコトアリ然
ルニ諸公使等此國ニ在ルノ日多カラス而シテ

素ヨリ其談判ニ於テ已レノ意ヲ達センコトヲ
渴望スルニ依リ若シ外務省ニ於テ拒絶ヲ受ク
ルトキハ大抵常ニ英國ト聯合シ以テ其意ヲ達
セントノ計ニ出ヅルナリ是レ蓋シ規ヲ照シ正
シク文際上ノ事ヲ議セントスルトキハ其意ヲ
達シ能ハサル所ノ事ヲモ若シ英國ト聯合シテ
之レヲ議スルトキハ常ニ其意ヲ遂ケ能フベシ
トノコトヲ日本閣國ノ初メヨリ不幸ニシテ習
ヒ知リタルガ故ナリ
日本皇帝陛下ハ右ノ如キ外國公使ヲ成ル可キ

大ケ寛過シ而シテ若シ別個ニ某件ヲ請求スル
コトアル時ハ縱令其請求スル所ノ件ハ其以前
諸公使ノ聯合シテ乞ヒタル時ニ拒絶セシ件々
リトモ之レヲ許シテ別ニ害ナクンハ一々其請
求ノ件ヲ許可アラシコト予ハ日本政府ノ爲メ
ニ益ナシトセサルナリ若シ斯クノ如キ處置ヲ
施シテ其効ナク外國公使ハ日本ニ對シ常規ニ
戻リ而シテ厭惡スベキ舉動アリ夫レガ爲メニ
日本ハ猶ホ其困難ヲ免レ能ハズンバ其上ハ本
國政府ニ對シ此困難ヲ免ルベキ策ヲ施スベ

シ若シ本國政府ニ對シキモ亦日本ノ志願ヲ達
シ能ハサル上ハ則チ衆意ニ訴フルノ外他ナキ
ナリ此衆意ハ歐羅巴及ヒ亞米利加ノ西大洲ニ
於テハ殆ント最上ノ權カヲ有スルモノト去
レトモ此終末ニ訴フベキ法院衆意ヲ指シ其意
ヲ通センニハ通常ノ手段ヲ以テスベカラサル
ナリ

扱此衆意ニ控告シ而シテ最大ノ勢カト雖トモ
之レヲ管制シ能フ可キ程ノ衆權ヲ引起スニ五
十年以來大抵プレス紙刊刷ノ類ヲ意新聞ノカヲ用ヒタ

リ此機械ヲ適宜ニ使用スルトキ之レヲ以テ生
シ得ル所ノ實ニ當ルベカラサル大勢カヲ知ラ
ント欲セハ歐羅巴及ヒ亞米利加ノ重大事ニ
於テ其顯ハシタル効ヲ着テ明カニ知ルベシ此
大勢カヲ用ヒテ合衆國ハ其南部ニ行ハレタル
賣奴ヲ一掃シ又英國ノ執政官ヲ維持シ或ハ傾
覆スルモ亦屢々此力ノ虧キニ依レリ當今ニ至
テハ衆意ノ欲セサルトキ散テ戰ヒテ起シ能ハ
ズ苟モ衆意ノ向フトキハ戰ヲ拒ム能ハサルナ
リ此衆意ハ管制ノ器械ナルコトヲ歐羅巴ノ諸

政府ハ大ニ承認シタルガ故ニ歐洲陸地ニ在
ル各政府ハ其目的ニ一般國人ヲシテ最モ多ク
左祖セシムベキ様ニ其目的トスルニ由リ世
上ニ表出シ置カン爲メ一個或ハ其以上ノ器械
新聞紙ヲ具フルヲ以テ欠ク可カラサルヲ事ト
セリ斯クノ如キ器械ヲ佛國獨逸國澳國魯國及
其他ノ國々ハ皆齊シク具ヘタリ政府ハ此器械
ヲ只自國內ニ具ヘ有スルノミナラズ又其近傍
ノ國々ニ於テ之レヲ有スルノ例少カラズ英國
ニ於テハ此器械ヲ政府直ニ具ヘズトモ

ジードストニスレリ及ヒアライト氏ノ如
キ有力ノ政事家ニテ之レヲ維持セリ合衆國ニ
於テハ歐羅巴ニ於ケルガ如ク大ニ此器械ヲ
用ヒズト難トモ亦タ必要之レヲ用ユルナリ
斯クノ如ク衆意ニ政府ノ意思ヲ通達スヘキ
械ハ政府関涉ノ事ヲ亟ニ表示セル定期
新聞紙ト草率ニ出版セリ新聞紙上ニ於テ論
盡シ難キ特別ノ条件ニ付論説ヲ作り
上ニ布播スル所ノ小冊子トナリ
本政府ノ言願能ク外國公使ノ阻碍ノ所

ヨリ生

府ノ困難外國公使日本政府

ヲシ阻碍ノ可為アルコト西洋諸國ノ衆人

ヲ知ラサル所ナリ等ヲ正サニ世上

ノ且ツ其心意ノ誠実及ヒ政府ノ昧面并ニ威風

ヲ保存セン為メニ用ユベキ新聞紙ハ前

シ二種ノ器械ノ中ニテ最モ日本國ニ益アル

不疑ヲ容レサルナリ

横濱出版ノ諸外國新聞紙ノ和僻ナリ

リ是レ迄日本政府ノ被リタル害ハ甚ク大ニ

テ殆ント測レシラス其故ハ此諸新聞紙ハ其

26

力微弱ナリトモ多年間ニ外國ニ関セル報

知ノ歐洲ニ達セシ道ハ此諸新聞紙ノ外ニ絶ヘ

テ無ケレバナリ此新聞紙中或ル新聞紙

大英國ノ利益而已ヲ計リテ出版シ而シテ其他

ノ新聞紙ト雖トモ英國ノ為メ利益ヲ計ル

他國ノ利益ヲ計ルモノ一モ非ラス此諸

ハ若ナ今マ日本國ノ創始セル進歩ヲ敵視セリ

然ルニ此新聞紙ハ諸邦ノ宰相及ヒ

者ノ手ニ過ル多ク達シ而シテ其中ニ屢々

ハヒ虚言

大義

モノ事
見做スルノ合無國ニ於テハ幸ヒ其事
之レニ異ナレバ其故ハ日本國ニ来
ノ亞國人ガ自身ノ厚意ヨリ日本國ノ情実ノ真
ノ形容ヲ亞國ノ新聞紙及ヒ雜報中ニ掲
レバナリ而シテ或ル場合ニ於テハ其効如
シク顯レタリト雖トモ斯クノ如キ事即已ニ
ハ日本ノ爲ノ願ハシキ所ノ目的ハ是
ハ十分ナラサリキ今日本ノ爲メニ顯然肝要タ
ルベキコトハ固チ當今ノ日本ノ趣意ヲ十分明

27

瞭ニ説キ示スルニ新聞紙ヲ改テ具右スルコ
ト是ナリ而シテ此新聞紙ヲ以テ惟ニ外國公使
ノ奉勅ノ上ニ直テ其カラ施サシムルニ
テス之レヲ歐洲諸都府及ヒ改事上ニ最モ關係
アル諸地ニ配達シテ日本ノ地位ニ衆人ノ意
着セシメ且ツ更ニ能ク之レヲ知ラシメ
ヲ要スルナリ此新聞紙ノ出板ノ詳細ノ件ニ付
キテハ予ハ左ノ如キ方法ヲ採用セン
一 此新聞紙ヲハ公部私部ノ二部ニ区分シ公
中ニハ法
規則布達及
政府
意ノ

七

政府ノ心意ニ非ラサルコトヲ証ヒテ政府ニ歸
シタルモノヲ説破シ或ハ政府ニ害ニ與
流言ヲ辨駁スル如キ公ケノ陳述ヲ掲載スベシ
蓋シ重大事ニ涉リタル外國トノ談判内ハ
乱及ヒ外國トノ戦争等ノアリタル時ニ於
斯クノ如キ陳述ヲ做サ、ルヲ得サルコト屢々
アルベキナリ又私部ノ部ニ於テノ
識アル論説家ノ諸説ヲ載スヘシ而シテ又此部
中ニハ全國ノ利害ニ關係スル諸事件ニ付

日本政府ノ警政ノ新聞紙ノ意ヲ辨駁シタル
論説陳述及ヒ意見ヲ悉ク掲載スベシ斯ク一紙ヲ
二部分ニ分チ置クラ以テ外國公使ヨリ於
或ハ建言ヨリシテ若シクハ生スヘキ困難ヲ改
府ハ避クルコトヲ得ベシ如何トナレハ此新聞
紙中公部ノ部中ニハ何様ノ事柄ヲ設ク
争論ヲ起シ或ハ故障シ得ヘカラサル所ノ確乎
タル実事ヲ簡畧且ツ嚴格ニ記シタル
ヲ掲載シ而シテ私部ノ部ニ於テハ談実事ニ付
マテノ評論及ヒ談実事ニ基キテ起シタル論説

テ掲クベシ而シテ萬一右論説論辨中一外國公使ノ意ニ違ヒサルコトアリテ該公使日本政府ニ對シ不平ヲ鳴ラシ苦情ヲ訴フル如キ事所爲アルトキハ此新聞紙中政府ヨリ許可ノ上ニ出板セル公部ノ部分ヲ除クノ外政府ハ毫シテ其責ノニ當ルベカラス而シテ私部ノ部ニ至リテハ政府ノ管轄内ニ非ラサル旨ヲ政府ハ惟々ニ答フル而已ナレハナリ且又政府ハ此類ノ如ナルニ私部中ニハ諸投書ヲ悉ク載スルガ故ニ外國公使モ亦此新聞紙ニ托シ自身ニ最モ都

合ヨキ様其意ヲ陳フルコト固ヨリ自由タルベシノ言ヲ以テスルモ亦タ可ナリ此新聞紙ヲ設クルノ策日本ニ取りテハ一層緊要ナル事其故如何トナレハ日本國ノ事情ハ只僅々外國ニ知ラルノミナルニ依リ外國ノ衆人ハ日本國ノ事ニ付キテハ常ニ甚タ瞞着サレ易ケルナリ例之重國ニ於テ一等ニ位スルニウヨルクタイムス新聞紙ニ於テ日本政府ハ其改革ニ新法ヲ施行セトテ其國ノ人民ニ暴虐ノ處置ヲ施セリトノ事及ヒ該政府ハ惟々一筆ノ下ニ疊

ラ用一ルコトヲ廢止セリトノ事及一日本人民
ハ家具ノ備ハナキ故ニ疊テ廢止サレシヨリ大
不便ヲ覺ヘ夫レガ爲メ全國動亂ノ兆ヲ顯セリ
トノ事等ヲ二ヶ年前予カ看讀セルコトヲ記憶
ヒリ又二ヶ月前予カ北京ニ在リシ時英國皇帝
陛下ノ公使ハド氏ピットマン氏ニ語テ云フク
同氏が臺灣事件ニ付キテ知レル所ハ總ヘテ悉
クジャパンヘラルド及ヒノール新聞紙ニ誌キテ
拾集セシモノナリト然ルニ右ノ新聞紙ノ説ニ
反對シ且ツ更ラ一正シキ説ヲ掲ケタルト一ヶ

イギリスナルニ練京如クヲピットマン氏ヨリ左
ド氏ニ授ケタル後ニ至リテハド氏ハ臺灣
事件ニ付其意見ヲ頗ル大ヒニ變シタリ東
京ヲ去ルコト甚タ遠カラス而シテ又臺灣事件
ノ如キハ頗ル明カニ知レベキ筈ナル北京ノ如
キ一都府ニ於テスラ惟衆意而已ナラス既ニ支
那ノ地ニ於テ四十年ヲ送リタル所ノ左ド氏
ノ如キ人物ノ意見モ亦タ尚ホ新聞紙ヲ讀ラ以
テ斯クノ如ク大ニニ變ズルコトヲ得ルニ於テ
ハ條約改正外國人日本法外ノ章程内地貿易

大義

ニ旅行裁判法等ノ事件ニ至リ欲羅已及亞米利
加ニ於テ日本ノ讐敵黨之レヲ評論スルニ於テ
ハ其國々ノ衆民並ニ政府ノ意見ニ何等ノ差響
キラ起シ来ルベキヤ推知スベキナリ
又政事上ニ関セル重大事ニ於テ小冊子ヲ用テ
做スコト均シク明カナリ諸國衆庶ノ自ラ查察
スルノ便ナク且ツ新聞紙上ニ載セ能フ如キ講
説ヨリ更ニ精細且ツ嚴格ナルニ説ヲ要スルキ
所ノ事件ヲ詳明セシガ爲メニ之レヲ用ヒ小冊
子ハ大ヒニ其功ヲ奏セリ英國ノ現今ノ宰相并

スレトリ氏ハ惟々四十年前自ラ著述セシ小冊
子ノカニ依リ始メテ其國ノ公務ニ於テ地但ヲ
得タリ而シテ其後續キテ高位ニ進ミタルノ身
一ノ助ケヲ成シタルモノハ亦政事上ノ小冊子
ヲ只々大ヒニシタル数卷ノ書冊ヲ著述セシコ
トニテアリタリゴブデン氏ジードストン氏
ハ何レモ卓絶セル英國ノ政事家タリ而シテ皆
ナ斯クノ如キ書冊ヲ屢々自身著述シ或ハ其趣
意ヲ授ケ人ヲシテ著作セシナル者ナリ今
日本ノ爲メニ緊要ナル目的ヲ達セシ爲メ斯ク

ノ如ク小冊子ハ自國及ビ外國ノ人心ヲ合セテ
感^{スル}ラ以テ二倍ノ功ヲ望^ムベシ此小冊子
ニ於テハ^ハ一般事件ニ付講究^{シタル}結局
ヲ簡畧ニ掲載シ能^フベク而シテ又斯ク掲^ケタ
ル報^聞工評論ヲ加^ヘ以テ速ヤカニ之^レヲ確證
シ能^フベシ

此小冊子ノ有カナルコトヲ稍々示スベキ一
ハ下ノ関償金一件ニ付キテ著^{シタル}一冊子ニ
ホ^テ者^ルベシ此小冊子ノ著作^者ハ專^ラ合衆國ノ
議院ニ對^シ其論ヲ立^テシモノナレトモ之^レヲ

日本ニ於テ刊行^{スル}ニ於テハ是迄一般衆人ノ
未^タ知^ラザリシ大緊要ナル史^上ノ真事ヲ世上
ニ顯^{ハス}ベキナリ而シテ此真事ハ後來若シ外
國公使ヨリ下ノ関償金ニ齊^シキ償金ヲ暴^ニ討
求^{スル}コトアリタルトキ之^レヲ拒絶^{シテ}當然
ナルコトヲ示^スノ用^ヲ做^スベキモノナリ
政府用ノ爲メニ著^述セル小冊子ハ常ニ其著作
者ノ名ヲ著^ハサ^テ而シテ何人ノ手ニ出^ラタル
ヤヲ知^ラシメ^ノサ^ルコト通法ナリ
政府ニ政事上ニ關係^セル事件ニ付其意見ヲ抱

義
自

キ而ニテ某時ニ其意見ヲ世上ニ示シテモ宜
キニ適フヤ否ヤヲ確知シ難ニトアルル
ハ敢テ其意見ヲ世上ニ露出セサル以前先ツ其
意見ヲ自國ノ人民及ヒ外國政府ニテ如何ニ承
受スベキ欵ヲ欲スルコト必ダラズルトキ斯
ノ如キ小冊子ヲ巧ニ出タス時ハ政府ハ多ク
失錯ノ舉動ヲ避ケ得ル能フベシ第三那波烈翁
ハ其在位間ニ常ニ大ヒナル策畧ヲ施シタリシ
ニ各策畧ヲ用ヒントスル前必ラス先ツ斯ノ如
キ小冊子ヲ出シタリキ

政府ノ新聞紙ヲ此種類ノ書冊ヲ以テ生シ得ベ
編輯スル者及ヒキ如ハ元來臺灣島ハ支那帝國
其他無名ノ小冊領地ノ一部ナリヤト云ヘル題
子ヲ著述スル者号ニテ著述シタル小冊子ニ
ハ其新聞紙或ハテ其一例ヲ見ルベシ此小冊子
小冊子ニ載スベノ由テ来リタル源オハ明告セ
キ論說ノ趣意オサリシト雜トモ支那人ハ此小
ハ須ラテ政府中冊子ニ若干ノ確説アリト信シ
最高ノ地位ニ在タリ而シテ此冊子ハ終始支那
ル人ヨリ受クベ政府ノ承認シヤヘンヤカク説

ク而シテ此編輯ヲ三張ニタル其終末ニ
者或ハ著述人ハ一ノ建言ヲ載セタリ此建言ニ
最トモ篤ク信任依テ支那政府ノ心中ニ一ノ方
スベキ人物ノ中策ヲ提起セシメ而シテ大久保
ヨリ撰奉スベシ氏ノ尽力ヲ以テ支那政府ヲ
政府ノ補佐ヲ做テ終ヒニ此策ニ出テシメタリ
ク揃クノ如キ人キ
物ノ依頼スベキ品格ヲ備ヘタルヤラ十分ナル
確證ニ依リテ考覈スルコトハ此上ヘモ無キ一
大緊要事タルナリ此任ニ當タルヘキ人物ハ惟

其性篤実ニシテ且ツ才幹アル而已ラ以テ足レ
リトセズ成ル可クハ其人ノ習慣及経練ヨリシ
テ公事ニ関セル日本人カ抱キタル愛國ノ情ト
司一ノ情ヲ以テ日本ノ政事上ノ地位及ヒ景然
ヲ考察スルニ自然立チ至リタル所ノ人物ノ内
ヨリ撰ミ取ルベシ其編輯ノ術ニ於テハ如何ニ
精巧ナリトモ此國ノ利益ニ敵對セル政事上ノ
論ニ習慣シタル者ノ裁判ニ委シタルヨリシテ
不幸ヲ来セシ一例ハジヤパンナール編輯者
ニ於テ看ルベシ此等ニ於テハ其本社ノ「月刊」

新聞紙ハ年々日本ニテ維持スナリ
ドシタイムス此有力ナル新聞社ニ此ジヤパン
ノールノ編輯者ハ恰々モ日本ノ大讐敵ノ如ク
ニ臺灣一件ニ付キ日本ノ處置ヲ終始非難シタ
ル教書ヲ投シタリ中ニ於テ日本政府ノコトニ
付キ妄誕ノ説ヲ掲載シ以テ大害ヲ爲シタリ
右ノ道ヲ踐ミテ取行フトキハ政府ノ新聞紙
日本ニ關係セル要用ナル報知ヲ外國人民ニ廣
布スルノ助ケヲ做スノミナラス日本人出板ノ
新聞紙ヲ管制スベキ用ヲ爲スベシ此日本人出

板ノ新聞紙ニ政府ヨリ許シタル無限ノ自由我
ハ此自由ヲ殆ント放肆ト云ハントスヨリシテ
此新聞紙ハ稍々モスレバ衆庶ノ心中ニ迷誤惑
亂ヲ生スルナリ蓋シ日本ノ衆庶ハ封建制度ノ
時ノ担任ノ情ナキ風習ヲ僅カニ脱センハニニ
シテ自由出版ノ有セシ如キ大勢力ノ有害ノ感
動ニ抵抗スヘキ適當ノ心意ヲ未タ具フルニ至
ラザルナリ
今マ政府ノ新聞紙ヲ設ケ衆庶ノ心ヲ安シクシ
導セバ之レヲ以テ或ハ右有害ノ感動ヲ免

能フベシ而シテ若シ此處動カリ此係ハ
ハレシノ置クニ於テハ歐洲ニ於テ採用セル
キ拘制ノ方法ヲ二三年内ニ採用セサル
ス但シ此方法ハ之レヲ施行スルハ爾夕管束ノ
力足ラザルヨリ苛酷ニ至リシコト徃々アリタ
リ
日本人民ハ嘗テ一個ノ大家族ノ姿ヲ爲シ而シ
テ令マ猶ホ其姿ヲ做スガ故ニ各人自主自担ノ
道理ニ基キ建立シタル泰西諸國ノ如キ國々ニ
於テ行ハル、烈シキ教法ヲ用ユルヨリハ此一

家族ヲ管治セル者ヨリ勸戒訓導ヲ做ス方々却
テ一層日本人爲ノ其益アルベシ
若シ外國人ハ日本法外タリトノ章程ヲ改メズ
之レヲ猶ホ存シ置キ而シテ前文ニ記載シタル
方策ヲ用ヒテ條約ノ改正ヲ做サバハハ
一個ノ特別ナル條款ヲ取設クベシ而シテ政府
ニ関涉セル事ヲ詳論スルニ付キ日本人出版ノ
新聞紙ヲシテ守ラシムヘキ所ノ限度ニ同シキ
限度ヲ亦外國政府ハ日本ニ於テ刊行セル外國
新聞紙ヲ守ラシムベキ旨ヲ右々

契約スベシ而シテ此法ヲ竊カ_レ犯_スル
ルトキ之レヲ罰スベキ法ヲ預メ設立スベシ

